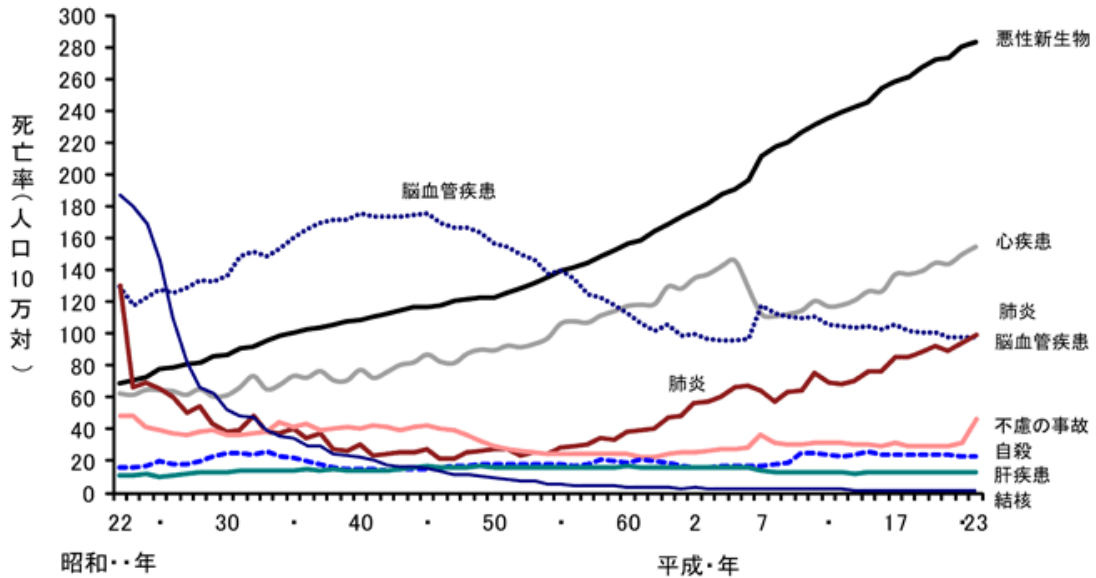




Vol.7 肺炎にならないための処方箋 その1

肺炎がついに死亡原因の第3位に！

長い間死亡原因は1位悪性腫瘍、2位心疾患、3位脳血管疾患が不動の順位でしたが、平成23年から肺炎が脳血管疾患を抜いて第3位になりました。

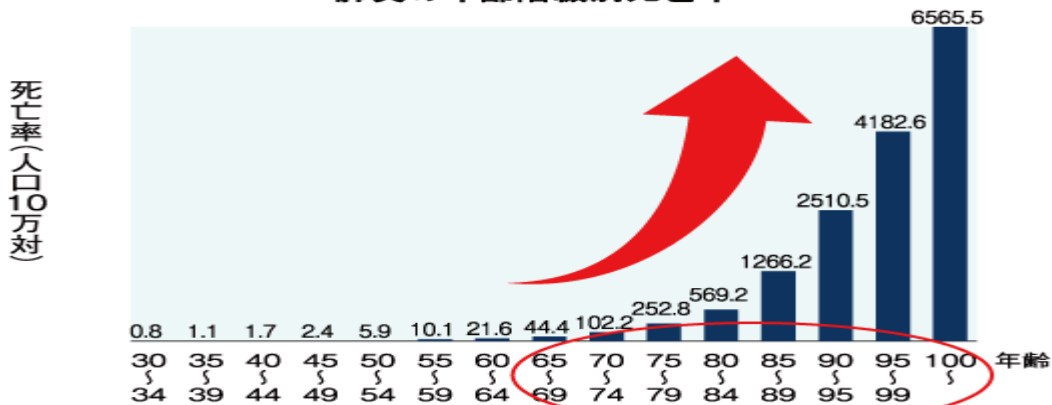


統計を取り出した昭和22年の第1位は肺結核で、第2位が肺炎でした。この当時は日本人の平均寿命が40歳の時代でした。その後衛生状態の改善や、抗生剤の進歩で結核や肺炎などの感染症は激減しました。しかし、平均寿命がのび平成26年で83.7歳と世界一の長寿国となると肺炎が再び増えてきたのです。

肺炎で死亡する95%が65歳以上の高齢者

最近ニュースで志村けん(66歳)やヒラリー・クリントン(68歳)が肺炎になったとの報道がありましたが、実は抗生剤を含めた医療が進歩しているにもかかわらず、60歳以上の肺炎の死亡率は以前とくらべほとんど減少していないのです。

肺炎の年齢階級別死亡率



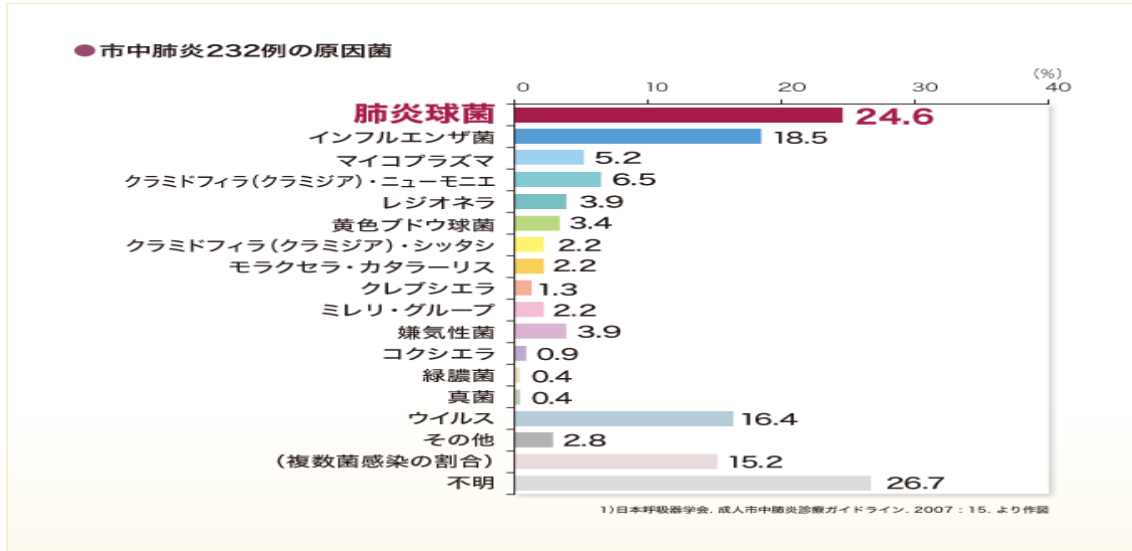
※ 厚生労働省 2006年「人口動態統計年報主要統計表」

高齢者の肺炎の原因のほとんどが不顕性誤嚥です

食物を誤嚥して起こす（顕性誤嚥）のが誤嚥性肺炎と思われがちですが、そうではありません。夜間睡眠中に本人が気づかない間に口腔内の唾液などを誤嚥して起こすのです（不顕性誤嚥）。健康な若者でも約半数のひとは睡眠中に唾液を誤嚥しているという研究結果も報告されています。

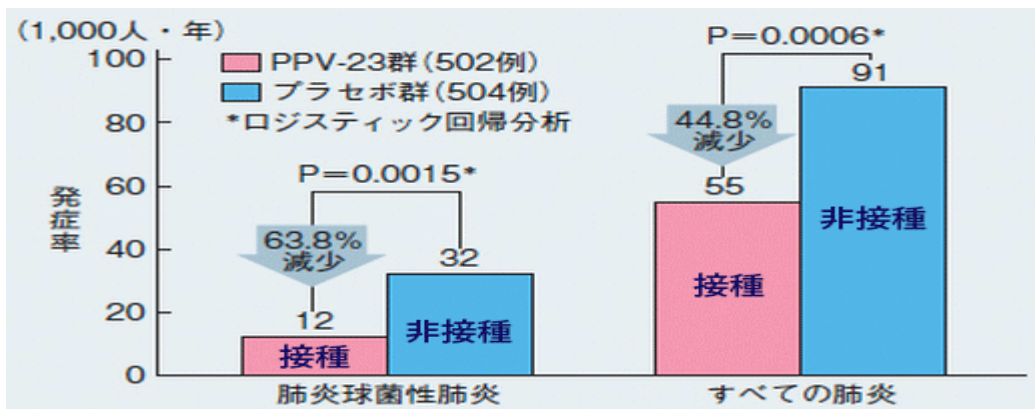
肺炎球菌性肺炎が肺炎の原因の最多！

肺炎を起こす微生物は多数存在しますが、肺炎球菌がなかでも最多です。また、肺炎球菌性肺炎は重症化しやすい肺炎の代表です。



肺炎球菌ワクチンによる予防

肺炎球菌に対するワクチンが本邦には2種類あります。以前からある肺炎球菌ワクチン（ニューモバックス）は65歳以上の場合、各市町村から助成があります。先進国の中で日本がこの肺炎球菌ワクチンの接種率が18%と最低です。肺炎で亡くなる方のほとんどが65歳以上の高齢者で、かつこの年代の肺炎の死亡率が低下していないことを考えると、肺炎球菌性肺炎にかかってからでは遅いのです。接種の適応のある方は積極的に接種することをお勧めします。



もとき内科クリニック

住所：藤沢市辻堂神台 1-3-39 かわりビル 4F

TEL:0466-47-8216

文：院長 大江 元樹